

平成28年教育委員会第1回臨時会会議録

開会日時 平成28年 1月25日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時40分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 天宮 久嘉
同職務代理 日高 芳一
委員 杉浦 容子
委員 塚本 亨
委員 竹高 京子
教育長 塩澤 雄一

議場出席委員

| | | | |
|-----------|-------|--------------|-------|
| ・教育次長 | 前田 正憲 | ・学校教育担当部長 | 平沢 安正 |
| ・庶務課長 | 杉立 敏也 | ・学校施設課長 | 青木 克史 |
| ・施設整備担当課長 | 長南 幸紀 | ・学務課長 | 鈴木 雄祐 |
| ・指導室長 | 中川 久亨 | ・統括指導主事 | 駒崎 彰一 |
| ・統括指導主事 | 加藤 憲司 | ・地域教育課長 | 尾形 保男 |
| ・生涯学習課長 | 小曾根 豊 | ・生涯スポーツ課長 | 倉地 儀雄 |
| ・中央図書館長 | 橋本 幸夫 | ・教育委員会事務局副参事 | 中島 英一 |

書 記

・企画係長 齊藤 正幸

開会宣言 委員長 天宮 久嘉 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 天宮 久嘉 委員 日高 芳一 委員 塩澤 雄一
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○委員長 おはようございます。

出席委員は定足数に達しておりますので、ただいまから平成28年教育委員会第1回臨時会を開会いたします。

本日の会議録の署名は、私に加え、日高委員と塩澤教育長にお願いいたします。

それでは、議事に入ります。本日は、議案等はございません。報告事項等4件、その他が3件ございます。

まず報告事項等1「平成27年度葛飾スタンダードに関する意識調査の実施結果について」説明をお願いいたします。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、「平成27年度葛飾スタンダードに関する意識調査の実施結果について」ご報告させていただきます。

1「実施内容」は、「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」の各項目の定着状況について、アンケート調査を実施いたしました。

(1)「対象」につきましてですが、授業スタンダードは区内小中学校の全教員に、4段階で調査いたしました。また、「かつしかっ子学習スタイル」ですが、区内小中学校の全児童・生徒に2段階で調査いたしました。

「実施時期」は、平成27年9月28日月曜日から10月23日金曜日の期間で実施いたしました。

2の「結果」は、後ほどご参照いただくとしまして、まず3番の「結果分析」についてお話しさせていただきますと思います。

まず、(1)『葛飾教師の授業スタンダード』調査結果から』についてです。小中学校ともに、全項目において、平均値が3を超えており、取組みが浸透しつつあることがわかりました。特に、「ねらいを伝える」「児童・生徒を褒める」につきましては、全体的に数値が高く、取組みの成果が顕著にあらわれております。

しかし、「児童・生徒の主体的な活動を取り入れる」「まとめをする」につきましては、「取り組んでいる」と自信を持って回答した教員は少数でございました。また、各学校間・教科間で取組みの差が大きいことがわかりました。

今後は、ねらいの明示、評価の充実をさらに推進していくとともに、主体的な活動場面の設定や、児童・生徒によるまとめの指導を充実させていく必要があると考えております。

続きまして、(2)『かしかっ子学習スタイル』調査結果から』についてです。全体的に肯定的回答が8割を超えており、落ち着いて学習に取り組む環境が整いつつあることがわかりました。特に、授業開始・終了の挨拶については、全学年において平均値が9割前後となっており、

高い成果を上げております。今後はさらに、小学校における「授業前の学習用具の準備」についての指導を充実させ、授業規律の確立を推進していく必要があります。

小中学校に共通して、大きな課題が2点挙げられます。第1に、「授業で分からなかったことを聞く」、「宿題やテストを見直す」等、理解が不十分な学習内容を克服しようとする意欲が低いことでございます。

第2に、「自らすすんで発言したり、友達の発言を真剣に聞いたりする」、「話し合い、学び合いをする」等、授業における積極性に関する項目が低いことでございます。

今後は、「チャレンジ検定」等を活用し、児童・生徒が「分かるようになりたい」と思えるような指導を工夫するとともに、(1)の分析で述べましたとおり、児童・生徒自身が主体的に学習課題を見つけ、友達と協議しながら課題を解決するような授業改善に取り組む必要がございます。

指導室といたしましては、以上の分析をもとに各学校の実態に応じて、授業改善に取り組みの推進を支援してまいります。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明につきまして、委員のほうから何かご質問等ございますか。

杉浦委員。

○杉浦委員 結果を見せていただきましたが、学校に伺ったときの学校の雰囲気と、大分差があると感じました。つまり、もっと評価がよいのではないかと思いました。先生によって厳しい評価を求める方と、捉え方に差があるような気がします。

各学校努力なさっていると思います。この結果を見て、次の課題として先生方は取組まれていくものと思います。

「かつしかっ子学習スタイル」ですが、授業の始めに学習用具を準備するというのは、小学校の場合1年生は82.8%なのに、2年、3年と学年が上がっていくごとに、できなくなっています。課題だと思えます。小学校1年生のときは子どもたちが入学してより緊張しているのか、それとも入学後先生がきちんと指導されているのか、この辺は担任の先生とご家庭でご指導していけばクリアできるのではないのでしょうか。

一方、中学校のお子さんの学習用具の準備については、全学年8割方できていますね。事前の準備というのはやはり、授業に対する生徒のやる気、意欲の表れがこの数値に出ていると思います。

また、「話し合い、学びあい」、アクティブラーニングについては、各学校いろいろな工夫をされ一生懸命取り組んでおりますので、来年度には、もう少し良い評価が出ると思っています。

この取り組みも2014年に始まって、約2年です。今後この辺の結果がきちんと先生、生徒にも

評価として数値にもあらわれてくると思っていますし、期待もしております。各学校に個別に指導室からご指導していただき、全学校がこの「かつしかっ子学習スタイル」、「教師の授業スタンダード」の意識をきちんと定着して取り組んでいただきたいと思います。

○委員長 ほかにございますか。

日高委員。

○日高委員 この結果の物語るものは何なのかと考えたのですけれども、先日、鎌倉小学校にまいりましたね。実践しているのとならないのはえらい違いなのです。ですから、鎌倉小学校の子どもたちがあの学習スタイルをしっかり身につけているから、算数が10点近く平均点が上がっていつている。数値にまで明確にあらわれるのです。だから、取り組みをしているか、していないかという結果は、大変大きなものがあると思います。数値は物すごく正直なのですよね。数値というのはごまかされようがないのです。

ですから、この結果を各学校に配るかどうかはわかりませんが、やはりすべての学校も意識を変えていただきたいと思います。区として、示したものをどう現実化し、そしてそれを実践化できるかというのは、学校の意識の問題だと思うのです。ですから、室長さんがやはり伸ばすべきことを指導を加えていきたいとおっしゃいましたけれども、まさにそのとおりでありまして、この分析結果を大いに生かしていただきたいと思います。

大体目当てのないような授業なんて授業と言わないでしょう。ですから、そういう意識を教員も持つと思います。

鎌倉の子どもたちは、ノートのまとめがきちんとできていました。しかも、自分でまとめているのですよ。全部違うのです、まとめ方が。私は、こういうふうに、きょうの授業をまとめますと、主体的なのですよね。アクティブラーニングと言いましたけれども、こんなのは昔からやっていることなのです。教師から言われるままを、そのまま写しなさいではなくて、自分がこの授業で何を学べたかということ自分の言葉で書きあらわすということは昔からやっているのです。ですから、もう一度、昔も言ってきたことを振り返るといことは物すごく大事ではないかなと、こんなふうに思います。小学校も中学校も一緒なのです。注入主義ではだめですと、教師の押しつけではだめなのです。子どもたちから引き出してください。だから分析の中にも出ていますけれども、子ども同士の話し合いで授業を進めるという一方法も大いにやっていいのではないのでしょうか。

私、今回、鎌倉小学校の授業を見て、授業というのを何千回も見ているから、言えるのですよ。あの授業のつくり方はすばらしいなど。

教師は大体しゃべり過ぎるのです。「考えなさい、考えなさい」と言って、「はい、ちょっといいですか」なんて「ちょっと」は余計なお世話でね。そういう授業というのは結構あるのです。ですから、考える時間だったり、考える時間を確保するということはとても大事で、そういつ

たことをぜひ積み上げていけば、全校にわたってこれが息づいてくると思います。ぜひ、ご指導いただきたいと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほかには。塚本委員。

○塚本委員 やはり「葛飾教師の授業スタンダード」あるいは子どもたちの意識調査の中でも学校間格差が棒グラフに顕著にあらわれています。子どもたちの意識調査のほうは数値化された座標がないので、パーセンテージだけなのですが、平均になりますと小学校中学年以降高学年に至る部分で授業前の準備云々から始まりまして、若干数値が落ちるのかなと。小中連携を促していくときに、やはり高学年から中学に移行したときに、いろいろ教科の中で、そこでもう既につまずきの材料が出てしまうのが心配されますので、そういった意味では、今、日高委員がおっしゃったのですが、本日ご提示の貴重なデータの分析を活用し、現場の校長先生を初めとして、共通のフォルダに入れていただき活用する方法を指導し強化をはかっていただきたいですね。やはり先生が上手に運ぶところの芽はどんどん伸びると思うのですね。

一丸となって応援していきたいと思います。ありがとうございました。

○委員長 竹高委員。

○竹高委員 「かつしかっ子学習スタイル」について、少し疑問に思ったのは、中学生が「ノートに『ねらい』、『まとめ』を書き、授業で学習したことをまとめていますか」という質問に関しては、70%以上きちんと学習するスタイルになっているにもかかわらず、「学習してきたことを活用して、課題を見つけ、話し合い学び合いをしていますか」の質問については低い数値ですよね。この質問は、普段の生活の中でやっているか、もしくは、授業中にこれをやっているかと聞かれているのかなとか、微妙に理解しにくいのではないかと感じます。10「家庭学習で毎日の宿題をやりきり、予習・復習を計画的に行っていますか」の質問についても、計画的にやっていなかったら、これは「はい」にはならないわけですよね。ただ、毎日の宿題をやり切っているという子どもは、結構な数でいると思います。「計画的に」とワンセットで出してしまうと、「はい」に○をするのはちょっとと思う子どももいるのではないかと思います。

中学校を見させていただいても、大多数のお子さんがとても一生懸命、授業に対しても頑張っているし、宿題に対しても家庭学習もきちんと自分から勉強しようというスタイルがだんだん定着していると思うので、質問内容を簡潔にすると結果も変わってくるのではないかと感じました。

以上です。

○委員長 ほかには、ご意見等よろしいでしょうか。

それでは、報告事項等1を終了させていただきます。

続きまして、報告事項等 2 「平成 27 年度チャレンジ検定の実施状況について」説明をお願いいたします。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、「平成 27 年度チャレンジ検定の実施状況について」ご報告をさせていただきます。「目的」について、改めて確認いたします。

「かつしかっ子チャレンジ」に示した、基礎基本の学習内容の定着を確かめるとともに、個に応じた学習支援を行うことにより、8 割以上の正答、検定合格へと導き、本区の児童・生徒の自信と誇りを育成することでございます。

「実施概要」でございます。第 1 回検定は、小中学校ともに、全学年で一斉に実施いたしました。小学校は平成 27 年 11 月 26 日木曜日に国語と算数を、中学校では平成 27 年 11 月 9 日月曜日に国語、数学、英語を実施しました。

不合格者を対象とした再検定及び、「体力」に関する検定は、各校で日時を設定し、3 月 11 日金曜日まで繰り返し取り組むこととしております。

続きまして、平成 27 年 12 月 11 日現在の結果でございます。これは、第 1 回検定の合格者数、満点者数とその割合を表にしております。それでは、表をごらんいただきながら、4 「結果の考察」についてご説明させていただきます。

まず、合格者の割合は学年が上がるにつれて、小学校では減少していき、中学校では増加していく傾向でございます。小学校では、学年が上がるにつれて、学習の進度に追いつけない児童が増加していると考えられます。一方、中学校では、高校入試を目標として学習に粘り強く取り組んでいる様子が伺えます。

次に、各教科を比較しますと、算数・数学について合格者の割合が低いことがわかりました。算数・数学については、基礎的な知識や技能を確実に積み上げていくような指導の工夫が必要です。習熟度別授業や東京ベーシック・ドリルの有効活用を通して、児童・生徒が学習を確実に積み上げていくことができる授業となるよう、指導・助言を継続して行ってまいります。

以上の考察を踏まえて、1 「目的」で触れさせていただきましたけれども、本区児童・生徒の自信と誇りを育成する取り組みになるよう、より一層改善を図ってまいります。

なお、2 回目の実施結果が先週金曜日 1 月 22 日現在で、今現在集計をしているところでございます。結果につきましては、この本委員会が終わりました後、委員の皆様には改めて資料としてお渡しする予定でございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。それでは、何かご質問等はございますか。

竹高委員。

○竹高委員 チャレンジ検定の実施状況を見せていただいて、1 回目の満点者数がこれだけい

るということは、中学生はやはり、1年生からしっかり受験に向かって頑張っている子どもたちは、チャレンジ検定にも力を入れて頑張っているのだなというのが本当に見えてくるというふうに思います。

小学校も、中学校も、先生方が一生懸命このチャレンジ検定を子どもたちに頑張ってもらえて、支えてくださっているというお話を聞いておりますので、ますます頑張って子どもたちに基礎学力がつかますようにお力添えしていただければと思います。

1点だけ質問なのですが、中学校の国語、数学、英語のチャレンジ検定は、専科の先生がやられているのか、もしくは担任の先生がやられているのか、わかれば教えていただきたいと思いました。

○委員長 指導室長。

○指導室長 こちらのほうにつきましては、実施日を指定し1日で実施している関係で、各中学校で定期テストを行っているように、監督のような形で実施しているというようなお話を聞いております。ですので、中には教科の先生が目の前にいるということもございます。このような方式を取らせていただいているところでございます。

○竹高委員 ありがとうございます。

○委員長 ほかに何か、ご質問、ご意見ございますか。

杉浦委員。

○杉浦委員 学校現場の先生方や生徒に聞いてみますと、日頃東京ベーシック・ドリルを取り入れて学校でやっていらっしゃるところは、合格者が多いという話を伺っております。学校別に記載されてはおりませんので、学校差はあるのだろうと思っておりますが、全校の平均ということで見せていただきますと、小学校の算数が厳しいと思いました。

3年生まではいいのですが、4年になるとちょっとがくんという感じで、下がっています。4年生になりますと、やはり2年、3年の積み上げと同時に少し難しくなってきますので、ここが課題なのかなと感じました。

やればできる、数値として出ているわけですから、先生方も家庭学習もこれをきちんと低学年のうちから積み上げていくということに力を入れていくことが課題だと思います。

また今の4年生は、この「チャレンジ検定」を1年生からやっていたわけではありませんが、現在1年生の結果、合格者数の割合がいいということは、ある意味でチャレンジ検定を入学した当時から経験している学年ですよね。この1年、2年、3年に、結果がここには出ているということを感じさせていただきました。

また、中学校の英語については、約半分合格していますので、まあまあかなと。今後きちんとスタンダードに沿っていけば、もう少し数値が上がってくるという希望を持っておりますので、粘り強くお願いしたいと思います。

この「チャレンジ検定」で基礎教育をしっかりと身につけ、葛飾区の小・中学校の義務教育を終了した子どもたちは、自信と誇りを持って社会の中に巣立っていくことができるということにつながると思います。「チャレンジ検定」を継続して実施してくださっているということに対しまして、すごく心強いですし感謝申し上げます。学校差につきましては、指導室で各学校の分析結果や工夫されている学校の情報を、校長先生、各担任の先生に発信し、きめ細かな指導をしていただきたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 ありがとうございます。経過報告をもう少しいたします。

委員にご指摘いただきましたように、小学校ですと4年生以上の算数がというお話がありました。確かに、こちらのほう12月11日現在で、算数につきましては、3年生までは8割を超えているところが4年生になると7割ぐらいに落ちてしまう。

現在、約1カ月たって1月22日現在ですけれども、4年生、5年生、6年生も数値的には、今、9割を超えているような状況までにきました。それから、既に中学校の英語につきましても、1、2、3年はほぼ5割程度という合格者数だったのですけれども、それもこの1カ月の間で、今、7割5分まで上がってきています。これにつきましては、1回目の検定後に各教員が、まず定着が図られていない児童・生徒に対して個々に対応をし、指導を繰り返し行ってきたあかしではないかなと、今のところ考えております。

また、この1月22日現在で、全ての学年が合格した、100%に達したという学校が既に出ております。小学校につきましては、現在、6校。国語と算数の1年から6年全てが合格したといううれしい報告も早目にいただいております。3月11日までに、全校がこの100%を目指すというようなことで取り組んでおります。経過につきまして、また改めて、ご説明をさせていただきますと思います。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。

○日高委員 では、意見ということで。

○委員長 日高委員、お願いします。

○日高委員 ありがとうございます。今、伺って進行中の途中の分析であっても、小学校9割ぐらい、しかも算数が本当にすばらしいなと思います。

この「かつしかっ子チャレンジ」とは、いつから始めたか後ほど聞きたいのですが、継続されているというところに意味が出てくると思いますので、ぜひ今後もこうした成果の出やすいというか、数値で見えるところの継続性をぜひ高めていただいて、お願いをしたいなということと、同時に、小・中の連携とか、小・中の一貫とか、小・中の関係とかよく使われるのですが、非常に不明瞭なのです。これは一貫校というのはよく聞きますけれども、余計なま

ねごとをする必要はないというのは私の考えなのです。小と中は校種の内容が全然違うのです。小から中にいくというのは大変な段階なのです。そういう段階をどう接続させるかというところに学習の課題が見えるのです。小学校6年生から中学校への教員たちが意識をしていないと、いい連携ができないと思いますね。

ですから、こういう一つのチャレンジの取り組みが、きっと葛飾の場合、よい結果をもたらすと思いますので、継続して分析をして、そしてやはり定着できていくような、学校の取り組みをぜひ促していただきたいと思います。そのことによって、このチャレンジ検定の取り組みの実施状況はさらに充実してくるのではないかと感じております。

すばらしい取組みなので、指導室挙げて各学校の支援をいただきたいと思います。ありがとうございます。

○委員長 指導室長。

○指導室長 日高委員のご質問についてお答えします。いつから始まっているかというご質問ですけれども、昨年度名称は違いますが「スタンダード検定」ということで昨年度から始まりました。今年度名称が変わりまして「チャレンジ検定」というふうにしております。

この問題につきましては、算数・数学は、東京ベーシック・ドリルの基本となっておりますけれども、それぞれの教科、管理職が委員長として中心となって作成したものでございます。

内容につきましては、基礎的なものなのですが、1回の一つの問題をもとに数値を変えたり、難易度を変えないようにして3パターンつくって、1回目合格できなかった子には2回目、それもできなかったら3回目というような形で繰り返しやっているものでございます。

以上でございます。

○日高委員 ありがとうございます。

○委員長 ほかによろしいでしょうか。

これは、今回、途中経過ということなので、先ほどのお話でも、中3の英語でも大分7割超えをしているということなので期待して見ていきたいと思っております。

それでは、続いて報告事項等3「放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）平成28年度の事業運営について」説明をお願いいたします。

○委員長 地域教育課長。

○地域教育課長 それでは、「放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）平成28年度の事業運営について」ご報告いたします。区内の49全ての小学校で実施しております、「放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）」、「わくチャレ」と呼んでおります。来月の2月には平成28年度の利用申込の受付が始まるところでございます。

まず、最初に「対象学年と実施時間の拡大」でございます。各学校において、見守りサポーターの協力を得ながら活動場所の確保ができた学校から、参加対象学年の低学年への拡大、安

全確保できる範囲での時間の延長を進めてまいりたいと考えております。

次に、「内容の充実」でございます。自由な遊びの中、子どもたちの安全見守りをしてまいりました。さらに、魅力を高めるために宿題はもちろん、スポーツ・文化活動など指導できるサポーターを配置して運営してまいりたいと考えております。

3点目は「サポーターの人材確保」でございます。平成14年の事業開始から10年以上となっております。地域の皆さんのご協力により、さまざまな世代の皆さんにご参加いただき、ご協力いただいた上でサポーターの活性化を図ってまいりたいと考えているものでございます。

4番が「学童保育クラブとの一体的な運営」でございます。国の放課後子ども総合プランでは、全ての就学児童が、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブをより放課後子ども教室の計画的な整備を進めるとしてございます。本区におきましては、わくわくチャレンジ広場と学童保育クラブの子どもたちが一緒に遊んだり、プログラムと呼ばれる学習、文化、スポーツ活動に参加できる連携の運営を進めてまいりたいと思っております。

平成28年度には記載の4校において、日程を決めたプログラムを実施してまいります。頻度は月に1、2回程度から始め、状況を見ながら進めてまいりたいと考えてございます。

5の「登録及び保険」でございます。わくわくチャレンジ広場に参加いただくには、子どもたちの緊急時の連絡先といたしまして登録をお願いしているものでございます。

(2)にございますとおり、ことしまで本年までいただいておりました、年間の保険料400円でございますが、来年から公費負担としてまいりたいと思っております。区内の学童保育クラブと同様の補償内容として進めてまいりたいと思っておりますところでございます。

私からの説明は以上です。よろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

杉浦委員。

○杉浦委員 ご説明ありがとうございました。教育委員会で、「わくチャレ」については毎回、いろいろな意見を出させていただいたと思います。そういった意見が少しずつ今回の報告の中に結果として、また方向性の中に取り入れてくださっているということを強く感じてうれしく思います。

現在、学校の姿勢、子どもたちの学力、体力の向上を言われておりますが、わくわくチャレンジもそういった方向性を即時に呼応して考慮してもらいたいという思いがありました。ですから、全校とは言えませんが、学習プログラム17校、文化プログラム6校ということで、以前よりもふえていると思いますし、また人材におきましてもサポーター人材確保も記載されています。多様な世代の参加ということで、多彩な方たちに参加していただけるようになっていま

す。学校から家庭の延長のように「わくチャレ」の教室に行って、すぐ遊ぶのではなく、一度机に向かって宿題や自学自習をやることができるようにしていただきたいと。勉強する環境が厳しいご家庭もごございます。いろいろ大変だと思いますが、強くお願いしたいと思います。今回の事業の運営の拡大につきましては評価したいと思います。よろしくお願ひいたします。

○委員長 ありがとうございます。

竹高委員。

○竹高委員 ご説明ありがとうございます。何よりも、保険が無料になるということを知り、すごくうれしく思います。

この保険料 400 円の費用がかかるから入れないというお子さんも、実際いないわけではないのです。手続がなるべく簡単にできる形になるといいですね。より一層子どもたちにとって放課後、安心・安全に遊べる場所ができるというのは大事なことだと感じております。

学童クラブとの一体的な運営とありますが、他区に見に行ったときにも、少し難しい課題があると思われました。微妙なところだとは思いますが、その先々に行ったところではやはり同じ子どもたちがその小学校で学童クラブにしても、わくチャレにしてもみんな存在しているわけですので、地域と一体になってこういう活動がどんどん進んで、いつでもその学校の子子どもたちが安心・安全に楽しく遊べる環境を皆さんにつくっていただける方向で動いていただけたらと思います。

○委員長 ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。

このわくチャレに関しましては、人材確保という点が一番難しいことだと思いますけれども、ひとつよろしくお願ひいたします。

続きまして、報告事項等 4 「『キャプテン翼CUPかつしか 2016』の実施報告について」お願ひいたします。

○委員長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 それでは、私から「『キャプテン翼CUPかつしか 2016』の実施報告について」ご説明をさせていただきます。

今年度、初開催いたしました「キャプテン翼CUPかつしか 2016」につきましては、1月9日、10日両日とも晴天に恵まれ、10日のエキシビジョンマッチなどに多くの方が観客にお集まりいただきサッカー大会もレベルの高い試合で多くの方々に楽しんでいただきました。

また、ほかには「キャプテン翼ゆかりの地物産展」といたしまして、北海道富良野市、秋田県鹿角市、東京都武蔵野市、静岡県、大阪府、長崎県平戸市に加え、葛飾区も参加いたしまして各地の物産品の販売・PRを実施し、こちらも多くの方々にぎわいました。

1「実施日時」、2「会場」、3「天候」につきましては記載のとおりでございまして、4の「参加人数」でございますが、1月9日土曜日が1,250人、1月10日日曜日が4,860人で、合

計で延べでございますが6,110人でございます。

また、サッカー大会の競技の結果でございますが、優勝が大宮アルディージャジュニア、準優勝がFCトリプレッタ渋谷ジュニア、3位がWings U-12、4位が三菱養和SC巣鴨ジュニアとなりました。葛飾区選抜が予選を通り、決勝トーナメントのほうに進みましたが、1回戦で敗退してございます。

6の救護・迷子等につきましてはございませんでした。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。これは楽しいイベントでしたけれども、ご意見のほうは何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、報告事項等4を終了いたします。

ここで、何か各委員のほうから、ご意見等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、続きまして、「その他」の事項に入らせていただきます。

庶務課長、一括してよろしくお願いいたします。

○庶務課長 それでは、「その他」3件説明させていただきます。まず、1の資料配付でございますが、今月は2月の行事予定表を配付させていただいております。A4の表裏両面となっております。

続きまして、2の出席依頼ですが、今回についてはございません。

3、次回以降の教育委員会予定については記載のとおりでございますので、後ほどごらんおきください。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、平成28年教育委員会第1回臨時会を閉会とさせていただきます。どうも皆様お疲れさまでした。ありがとうございます。

閉会時刻10時40分